



摘出術後の看取りと家族支援

このシーンに参加するスタッフは…

主治医，看護師，臨床心理士，MSW，院内コーディネーター，など

MUST!

1. 子どもが家族のもとに戻る際にも，子どもの尊厳を守る姿勢を保つ。
2. 家族が子どもとしたいことを尊重する。
3. 家族が希望すれば，臓器のお見送りを可能にする。
4. 臓器提供にかかわったスタッフは，子どものお見送りに参列することが望ましい。
5. 臓器の摘出・搬送が終わっても，家族ケアは続いていく。

1 子どもが家族のもとに戻る際にも，子どもの尊厳を守る姿勢を保つ

- 家族が子どもと静かに対面できる場所を用意する。
- 手術室から家族のもとに戻る前に，子どもの身体の体裁を整える。
- 家族と医療スタッフがともにエンゼルケアを行う。エンゼルケアは，家族のグリーフワークになる。

2 家族が子どもとしたいことを尊重する

- 抱っこや添い寝，手形・足形をとるなど，家族が子どもとしたいと考えていることを尊重する。

3 家族が希望すれば，臓器のお見送りを可能にする

- 家族は臓器のお見送りを希望する場合もあるし，希望しない場合もある。その気持ちを尊重し，希望する場合には出口までの経路を工夫するなどして対応する。

4 臓器提供にかかわったスタッフは、子どものお見送りに参列することが望ましい

- ☑ 子どもの退院に際して院内の医療スタッフだけでなく、NWC0などもお見送りに参列する場合があります。
- ☑ 可能であれば、子どもの退院に際して、家族にグリーフカードを渡す。

5 臓器の摘出・搬送が終わっても、家族ケアは続いていく

- ☑ 家族ケアは退院後も続いていくものであり、礼を失しないようにする。
- ☑ 例えば、提供施設による継続的な家族ケア・サポートとして、以下のようなものがある。
 - ▶▶ 子どもが退院するにあたっては、子どもの経過について再度説明を受けることができることを家族に伝え、病院の担当者の連絡先を渡す。
 - ▶▶ 子どもをケアした施設のスタッフによる継続的な家族ケアを家族が望む場合は、連絡方法を伝え、フォローアップミーティングを提供する。
 - ▶▶ 臨床心理士などの専門家による心理的なディブリーフィングミーティングやカウンセリングなどを提供できることを家族に伝え、連絡先を渡す。
 - ▶▶ 病院主催の遺族グループがあれば、紹介する。
 - ▶▶ 経験を活かした地域の自助グループなどがあれば、紹介する。
 - ▶▶ 専門家によるレクチャーなどがあれば、紹介する。
- ☑ 例えば、JOTによる継続的な家族ケア・サポートとして、以下のようなものがある。提供施設からも適宜家族に紹介・説明する。
 - ▶▶ 厚生労働大臣からの感謝状や、移植を受けた人からのサンクスレターを家族に渡している。
 - ▶▶ 子どもの退院後、NWC0は臓器の移植を受けた人に関する経過を家族に報告している。
 - ▶▶ ドナー家族の集いなどを開催している。
- ☑ このような取り組みのもと、提供施設とJOTが連携して家族の継続的なケアにあたるとよい。